**幼保小の架け橋プログラムについて**

**１．幼保小の架け橋プログラムの重要性（P4）**

（１）架け橋期とは

教　育・・・教育基本法等が掲げる目的・目標の達成を目指し、生涯にわたる発達や学びの連続性を見通して行われる

５歳児・・・経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考え、実現しようとする時期

１年生・・・自分の好きなこと・得意なことが分かっていく中で、学びや生活へと発展していく力を身に着ける時期。

５歳児から小学１年生の２か年を、**「架け橋期」**と呼ぶ

架け橋期の教育を担うのは、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校

（２）架け橋期の重要性

・現在は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示され、幼保小の交流行事等の取り組みが進みつつある

　　　　➡**形式的な連携にとどまるのではないか**との危惧

　　　　➡「架け橋期」とそれにつながる時期を通じた、３要領・指針等の理念の徹底の必要性

（３）架け橋プログラムの策定

・子どもに関わる**大人が立場の違いを超えて連携・協働し**、全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すもの

・架け橋期に求められる教育の内容等を**改めて可視化したもの**

**【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】（P7-8）**

①健康な心と体　②自立心　③協同性　④道徳性・規律意識の芽生え

⑤社会生活との関わり　⑥思考力の芽生え　⑦自然との関わり・生命尊重

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚　⑨言葉による伝え合い

⑩豊かな感性と表現

**２．幼保小の架け橋プログラムのねらい（P10）**

**資料２（要旨）**

幼保小連携の成果

　　　・３要領・指針の整合性を確保した

　　　・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を示した

　　　・連携の取り組みを行っている園が約９割に達している

幼保小連携の課題

　　　・就学前施設の７～９割が連携に課題意識を持っている

　　　・半数以上が行事交流にとどまり、カリキュラムの編成、実施に至っていない

　　　・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が『目標』と誤認され、連携の手掛

かりとして機能していない

　　　・スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがバラバラに策定されている

　　　・具体的なカリキュラムの工夫や改善方法が分からない

架け橋プログラムの狙い

　　　・５歳児と１年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育と小学校教育の関係

者が連携してカリキュラムの充実・改善にあたる

　　　・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改

善に生かす

　　　・園が行っている工夫を見える化し、家庭や地域に普及する

**３．幼保小の架け橋プログラムの取組（P11）**

　・令和４年度から３か年程度を念頭に、全国的な架け橋期教育の充実を進めるとともに、モデル地域における先進事例の実践を並行して集中的に推進する。